

2013年(平成25年)6月25日



病院長からの一言

～医療技術部ならびに臨床試験管理センターのスタート～

弘前大学医学部
附属病院長 藤 哲



2013年度がスタートしました。昨年度の病院収入は、病床稼働率及び手術件数の減少にもかかわらず、診療単価のアップ及び在院日数の短縮などにより当初見込みよりも増加しました。また、薬品の価格見直しや後発医薬品の採用などによる経費削減効果もありました。先日行われた内部監査では、“病院の収支は安定しており、

借金も減少してきた。高度救命救急センターは、搬送された重症患者の9割が命を救われており、地域医療の“最後の砦”としての役割を充分果たしている。”と評価されました。これは、ひとえに職員の皆さんの尽力の賜物と思っています。

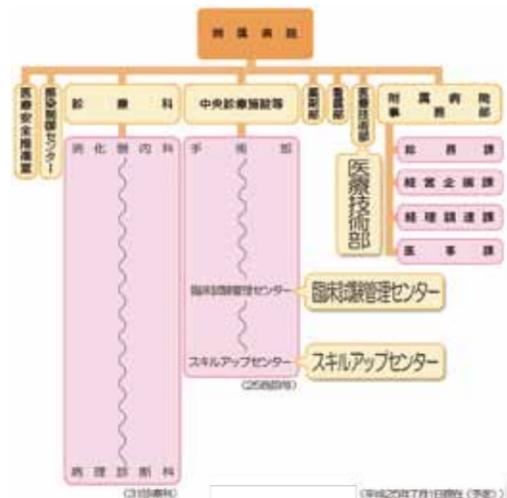
さて、附属病院に課せられた中期目標・中期計画のなかの懸案で

あった2つの項目、医療技術部及び臨床試験管理センターの立ち上げが決まり、前者は既にスタートしています。医療技術部は医療職を一元的に組織し、医療技術提供を円滑に行うとともに、効率的な管理運営を推進し、病院運営・医療支援・医療サービスの向上を図ることを目的に構築されました。これにより広く病院全体の中で各専門分野をとらえ、限られた人材を活かしていければと考えています。臨床試験管理センターは、治験管理センターの改組ということになります。治験管理のみならず先進医療や臨床研究実施のため、体制の充実にすることが目的です。また、文部科学省 GP の予算措置が終了することに伴い、キャリアパス支援センターを廃止

し、卒業臨床研修センターが専門養成に係る諸々をカバーすることになりました。

これで、昨年度新たに開設されたスキルアップセンターと黒瀬教授の病理診断科を合わせた新しい診療科は31、中央診療施設等は25となります。

本年度4・5月の診療関係諸指標報告では、稼働率・手術件数・病院収入は前年よりも良好なデータであり、職員の皆様の新年度における意気込みを感じました。これに応えるべ



く、引き続き環境改善に向けて努力する所存です。

平成25年度新体制スタート！

副病院長の消化器血液内科学講座 福田眞作教授、脳神経外科学講座 大熊洋揮教授、病院長補佐の総合医学教育学講座 加藤博之教授、皮膚科学講座 澤村大輔教授、泌尿器科学講座 大山力教授に加え、新たに看護部 小林朱実看護部長が病院長補佐に就任しました。



副病院長
福田 眞作
消化器血液内科学講座
教授



副病院長
大熊 洋揮
脳神経外科学講座
教授



病院長補佐
加藤 博之
総合医学教育学講座
教授



病院長補佐
澤村 大輔
皮膚科学講座
教授



病院長補佐
大山 力
泌尿器科学講座
教授



病院長補佐
小林 朱実
看護部長

新任部長の自己紹介

看護部長 小林 朱実



平成25年4月1日付で看護部長を拝命した小林朱実と申します。今年度から看護部長も任期制が導入され、4年間の任期となります。どうぞよろしくお願い致します。

昨年度までは、12年間教育担当副看護部長として、主に新人看護職員研修や継続教育を担当し、看護職員の成長を励みに、楽しく仕事をさせていただいておりました。

さて、最近の医療・看護を取り巻く話題では、平成25年3月29日厚生労働省「チーム医療推進会議」が「特定行為に係る看護士の研修制度について」の報告書をまとめました。現在「特定行為に係る看護士の研修制度(案)」として位置づけられ、今後さらに「チーム医療推進のための看護業務検討ワーキング」などで具体的な検討が進む予定で、看護部としてはその動向に注目をしていかなければならない重要な事案です。また、国立大学附属病院の将来像が全国国立大学病院長会議で検討が行われ、それを受けて全国国立大学病院看護部長会議でも、国立大学病院看護部のあるべき姿の検討を行っています。10年後20年後を見据えた活動が望まれています。さらに、5月30日付で厚生労働省では、特定機能病院の承認要件の改定案5項目と、その他として承認のための現地視察や更新制度の導入などが盛り込まれています。平成26年度には診療報酬改定もあり、それに向けての準備等やるべきことは山積み状態

です。先日の新聞記事に看護職の半分は辞めたいというショッキングな記事がありましたが、他人事ではなく、看護職の確保・定着は看護部でも喫緊の課題であります。そのためには、看護職のみならず病院職員が働きやすい職場づくり、労働環境改善などは積極的に取り組んで行かなければならないと考えております。2025年問題など社会情勢を敏感に捉え、看護部並びに病院の運営も今までの概念にとらわれず、全く違う戦略・発想を考えなければいけない時期に来ているように感じています。

看護部では、看護の質の改善、ていねいな看護と労働生産性の向上を目標にあげ、患者・ご家族から信頼される病院を目指し、一丸となって取り組んでいるところです。先日、文部科学省の専門官から頂いたメールに山口素堂の俳句「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」が添付されてきました。弘前もようやく初夏を思わせるよい時期となってきました。この句のように視覚・聴覚・味覚を、さらに触覚・嗅覚と五感を働かせ、患者さんのニーズを察知した優しさと思いやりのある看護の提供を目指したいと思います。

特定機能病院の看護の役割を果たせるように、また、病院の収益へ貢献できるように努力して参りたいと思います。皆様方のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新任部長の自己紹介

医療技術部長 藤森 明



平成25年4月1日付けで医療技術部長を拝命いたしました藤森明と申します。自己紹介もかねてご挨拶いたしたいと思います。私は弘前市生まれで昭和51年弘前大学医学部附属診療放射線技師学校を卒業、同年弘前大学医学部附属病院放射線部に就職し、幾つかのX線診断撮影業務に携わりました。その後放射線治療部門に移り、平成15年放射線腫瘍学認定技師、平成17年放射線治療専門放射線技師および放射線治療品質管理士の認定を受け、もっぱら放射線治療の分野で仕事をしております。

平成20年に診療放射線技師長に就任してからは、放射線の管理にも携わるようになり、大学病院内の「放射性同位元素に関する緊急点検」や福島県での「弘前大学被ばく状況調査チーム」に参加しました。これまでのさまざまな経験を今後の医療技術部の運営に役立たせて行こうと思っています。

医療技術部は4つの部門から組織され、各部門のスタッフは検査部門(臨床検査技師41名、胚

培養士2名)、放射線部門(診療放射線技師31名)、リハビリテーション部門(理学療法士6名、作業療法士3名、言語聴覚士3名、臨床心理士4名、視能訓練士3名)、臨床工学・技術部門(臨床工学技士14名、歯科技工士1名、歯科衛生士2名)となっています。医療技術部に所属する各部門の専門的な技術は異なりますが、其々が配属先の部署において高度な医療技術で患者さんや病院に貢献できるものと確信しています。また、互いの業務形態や歴史的背景などを尊重し合い連携協

力により円滑な人事運営を図って行ければと思っています。

我々は、施設認定や専門加算などに寄与する専門職として、病院経営を支える重要な役割を担っているという自負の元、新たな意識の創生を図ってまいります。関係診療科はじめ関係各位の皆様には、これまで同様、ご指導ご鞭撻を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

呼吸器内科の新患予約について

呼吸器内科では、平成25年4月1日より新患の完全事前予約制を開始しました。これは、初めて呼吸器内科を受診される患者さんまたは紹介元医療機関から呼吸器内科外来受付へ、事前に受診日時の電話予約を入れていただくというものです。この事前予約制により、診察の事前準備が可能となること、また加えて患者さんの待ち

時間短縮にもつながると考えております。

新患受付は毎週火・金曜日、予約時間30分前までに受付手続きを終えるようお願いいたします。

患者さん及び関連病院の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、主旨をご理解いただき、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(医事課)

先憂後楽

長命県から短命県へ赴任して



事務部長 寺坂 和記

平成24年4月1日に本院の事務部長に採用されました寺坂と申します。前任地は、長野県にある信州大学です。奇しくも、長命県から短命県への異動となりました。赴任にあたり、中路大学院医学研究科長の短命県返上に向けての真摯な思いと、藤病院長の職員にとって働きやすい環境の実現と患者さんへの優しい思いにふれ、身が引き締まる思いを感じました。

1年間を振り返りますと、①診療報酬関係では、平成24年度は176億円で対前年度1.7億円の

増収となりました。②組織関係では、スキルアップルームのスキルアップセンターへの改組、キャリアパス支援センターの廃止と卒業臨床研修センターの拡充、医療支援センターの廃止と医療技術部の設置、病理診断科の設置などでした。③人事関係では、助教10名、常勤及び契約医療技術職員9名[薬剤師3名(内1名は契約)、臨床検査技師2名、診療放射線技師1名、言語聴覚士1名、臨床工学技士2名]、常勤看護師17名の定員増のほか、看護部長の任期制

が導入されました。④医療機器関係では、多目的血管撮影装置、光学医療内視鏡システム、デジタル式乳房X線診断装置、医療器材運搬システム等が導入されました。短命県返上には、本院の更なる充実が必要不可欠と思われます。

今後の課題として、①労働環境の改善については、平成26年1月からの電子カルテ化の円滑な推進があります。また、医師の労働意欲の低下を防ぐための初任給調整手当の見直し、医師の過重労働対策としての医師事務作業補助者

の採用、手術部の看護師の増員、薬剤師等の増員、病院職員の人材育成が必要と考えます。②患者さんについては、更なる満足度の向上を図る必要があります。③医療環境については、心臓血管撮影治療装置等をはじめ、2台目のダヴィンチ導入、手術室の拡充、SCUの新設、小児病棟の設置検討のほか、病棟の改修計画の策定等が控えており、藤病院長の下、鋭意、実現に向け取り組みたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

各診療科等の紹介

【病理診断科】



みなさんこんにちは。病理診断科・病理部です。2008年に病理が診療標榜科として法的に認められて5年、本学医学部附属病院においても「病理診断科」が院内表示されました。日本では、病理を基礎医学に組み込んだがために、病理が臨床であるという認識が遅れました。しかし、昨今の医療は病理の大きな参画無くしては成り立たなくなりました。縮小手術、新たな抗癌剤や分子標的治療等腫瘍医療のみならず、炎症・代謝・変性・内分泌疾患、感染症そして移植医療…、これら全ての分野の診断・治療の進歩は病理に新

たな組織情報提供を要求するに至ったのです。本学において、臨床講座として病理診断学講座が設置されたことは日本では画期的で、今後全ての大学がこの方向を辿るでしょう。病理診断科・病理部は病理診断学講座が中心となり、基礎講座の分子病態病理学講座、病理生命科学講座、脳神経病理学講座、さらに保健学科と、病理関係教室全ての協力を得て業務を遂行していることは本学の大きな特徴です。

秀な技師と事務職員で構成されています。医療の進歩は病理業務の大幅な拡大をもたらしました。根治手術よりも縮小手術の方が病理標本枚数は遙かに増えます。例えば胃癌の場合、胃全摘では標本枚数は十数枚ですが内視鏡的切除では最低20枚、多い時には60枚以上に及びます。さらに、診断や治療方針決定のための免疫染色も増加の一途を辿っています。様々

な精度管理のほか、術中迅速診断の際の細胞診の併用など、目に付かない所でも良質な医療に貢献すべく努力しています。職員は、切り出し、標本作製、剖検介助、細胞診等の日常業務のみならず、研究・教育への貢献も重要な使命と考え、臨床各科の先生方の論文や学会発表のサポートのための標本作製や各種染色、さらに研究への支援も可能な限り行っています。また、BSL学生にも積極的に指導しています。このような姿勢は本学医学部にとって大変重要であると思われます。どうか職員の地道な努力に目を向けて頂ければ幸いです。

「病理診断科・病理部はディスカッションの場である。そして臨床医、病理医、技師の相互教育の

場である」ことが信条です。各科先生方が、コーヒーを飲み立ち寄りながら技師や病理医と会話することが良質な医療を提供する第一歩となるでしょう。私たちの仕事は華やかではありませんが、努力した分、本学の医療・医学の質的向上に貢献できればそれが矜持となります。花田前病院長そして藤病院長と、病理の役割にご理解を頂き、病理診断科・病理部に常設カンファレンスルームの設置が叶い、いつでも症例検討や学生の出入りができる環境が整いました。地道な活動を続けられれば、今後臨床医療・医学としての病理診断学に関心を抱いてくれる学生が出てくると信じています。どうぞ皆さん、気軽にお立ち寄り下さい。

(病理診断科 科長 黒瀬 顕)

平成24年度ベスト研修医賞選考会開催

平成24年度弘前大学医学部附属病院ベスト研修医賞選考会が、平成25年2月20日18時より、医学部臨床小講義室で開催されました。本賞は平成16年度の卒後臨床研修必修化に合わせて創設された賞で、今回で9回目を迎えます。当日は、あらかじめ卒後臨床研修センター運営委員会により優秀研修医に選ばれた、奥村美紀先生、木村嘉宏先生、平井秀明先

生、村上祐介先生(いずれも2年次)(五十音順)の4名の研修医が、「ここがポイント! 研修医の心がけ」と題し、自分が研修生活の中で重視してきた事柄について、一人7分間ずつスピーチを行いました。聴衆は学生および教職員で、スピーチのあと参加した学生諸君(特にこの1年間臨床実習で研修医に間近に接してきた5年生が中心)による投票が行われ

て、村上祐介先生に「ベストパートナー賞」、坂本瑛子先生に「レポート大賞」、小林明恵先生に「セミナー賞」、于在強先生に「グッドレスポンス賞」が贈られました。つづいて懇親会に移り、5年生から恒例となった「ベスト指導医賞」の発表が本年も行われ、会場は大いに盛り上がりました。教職員も多数の参加があり、教職員、研修医、学生がみな、この1年の研修や臨床実習の思い出について心ゆくまで語り合い盛会裏に終了しました。また当日は5年生のみならず、2年生の学生諸君30名が参加し、当院の行事に親しんでくれたことは特筆に価します。医師は「人と人の絆」の中でしか育ちませんが、本賞がこれからも、研修医・教職員・学生の絆を強固なものにするために貢献してくれることを期待しています。

(卒後臨床研修センター長 加藤博之)



▲中路医学研究科長、藤病院長と共に、ベスト研修医賞、優秀研修医賞の先生方

ました。投票の結果、村上祐介先生が平成24年度ベスト研修医に選ばれました。引き続き表彰式が行われ、村上祐介先生に賞状、純銀製メダル、記念品が、他の3名の先生方には優秀研修医賞として賞状、楯、記念品が贈られました。その他にも各種特別賞とし

第6回 弘大病院がん診療市民公開講座開催

腫瘍センターでは、「地域がん診療連携拠点」として、年1回市民の皆様を対象とした「弘大病院がん診療市民公開講座」を開催してきました。



今回は、2月11日弘前文化センターに於いて「がん治療」をテーマに開催し、75名の方にご参加頂きました。

あり(回答率52%)、「平易な言葉でとてもわかりやすく、素晴らしい講演でした。」「ダヴィンチが凄いいことがわかった。」「公開講座をもっと多く開催してほしい。」「高度な最先端の医療を受ける事が出来る事を知り、弘大病院への評価が良い方へ変わった。」「(原文のまま)など、沢山の貴重なご意見やご感想を頂く事ができました。

はじめに、附属病院腫瘍内科の佐藤温教授より分子標的薬を中心とした最新の抗がん剤について、次に附属病院泌尿器科の大山力教授より「前立腺がんのロボット手術『ダヴィンチ』」についてご講演頂きました。

最後に分かり易く丁寧な資料をご用意頂き、熱意のある講演をして頂いた演者の皆様と、厳寒の中、ご参加頂いた市民の皆様へ深く感謝致します。

講演後には、腫瘍センター長の放射線科高井良尋教授を交えて質疑応答が行われ、会場からの様々な質問に、がんの3大治療の専門医の立場からお答え頂きました。

(腫瘍センターがん診療相談支援室)

同時に、実施したアンケートにおいては、39名の方から回答が

弘前大学看護職教育キャリア支援センター事業のロゴマークが決定

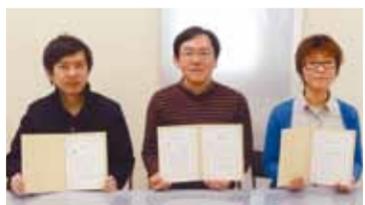
この度、「弘前大学看護職教育キャリア支援センター事業：HiroCoナース育成プラン」について広く職員へ周知する目的でロゴマークを作成しました。2つの素敵な作品が決定しましたので、ロゴマーク作成の経緯などについて簡単にご紹介いたします。

倫理性を持つとともに、対象者の健康と生活を支えることができる一人前のナースをいいます。

4月15日に、センター長である小林看護部長より公式ロゴマークに採用された2人の方へ表彰状と副賞が贈られました。(看護部)

看護部では、平成24年3月に、看護職の教育・キャリア支援を統括し円滑に実施するために、保健学研究科と協働し「弘前大学看護職教育キャリア支援センター」を設置しました。看護学生から新人そして一人前の看護職になるためのシームレスな教育システム「HiroCoナース(Hirosaki Competentナース)育成プラン」を開発しております。「HiroCoナース」とは、3年程度の臨床経験を積み、高い

昨年度、「HiroCoナース」や「看護部の目指す看護」をイメージしたロゴマークを募集し、看護部職員4名がロゴマーク起案プロジェクトメンバーとなり素案を作成後、本学教育学部美術教育専修デザイン科の学生に作品の制作を依頼しました。いずれも素敵な12作品(教育学研究科の西川優から2作品(教育学部渡邊きららさん)を選考しました。桜の花びらをモチーフにした作品は事業全体を表現したロゴマークとし、ハートが描かれている作品はHiroCoナース像を表現したロゴマークとして使用することになりました。



事業全体を表現したロゴマーク HiroCoナース像を表現したロゴマーク

看護週間に寄せて

5月12日はナイチンゲールの誕生日にちなみ、「看護の日」に制定されています。今年は、5月12日から18日まで看護週間とし、全国各地で「看護の心をみんなの心に」のテーマで記念行事が行われました。看護部では毎年、看護週間に「看護の日のお花」を展示しています。今年は「看護の心」をイメージしたハートのフラワーアレンジメントがエントランスに展示され、外来患者さんを優しく出迎えていました。その隣には、ライトボックスを設置し、ナイチンゲールティペアとともに、今年度決定した看護部のロゴマークと、それに込められた看護部の理念である「優しさと思いやり」についても紹介させていただきました。また、入院患者さんに

は、看護師が1人1人の患者さんへ心を込めたメッセージを記入し、5月13日に「看護の日のメッセージカード」をお渡ししました。今年のメッセージカードは桜の花をモチーフに、看護部のロゴマークを取り入れたデザインでしたので、患者さんにそのことについて説明させていただきました。患者さんからは「励まされた」「頑張ろうと思った」「自分のことを理解してくれていると感じた」などのお声を頂きました。なかには「昨年も貰ったが、今回も貰ってうれしかった」と昨年のメッセージカードを持っている方もいらっしゃいました。ロゴマークについては「かわいい、素敵ですね」と好評でした。これからも「優しさと思いやりのある看護」を提供していきたいと思っております。(第一病棟6階 阿保都子)

光学医療内視鏡システムを更新

光学医療診療部では本年3月に、内視鏡システム、ファイリングシステム、透視システムすべてが最新のものに更新され、すべての内視鏡システムでNBI(狭帯域光観察)に代表される特殊光観察が可能になりました。消化器内視鏡分野および気管支鏡分野のいす

れにおいても、検査件数と治療件数が年々増加傾向にありますが、最新の高画質の内視鏡が導入され、より精度の高い内視鏡診断と治療が可能になっております。カンファレンスルームにはハイビジョン対応のモニターが4台設置され、各部屋で行われている内視鏡画像をリアルタイムで見学できるため、若手医師あるいは学生の指導・教育にも非常に役立っております。



確保し、5月から稼働しております。洗浄消毒装置も最新のものに更新され、当診療部で使用した内視鏡に関しては、使用した医師、患者名、洗浄者などを把握(洗浄履歴管理)できるようになっております。現在、他部署で使用した内視鏡の洗浄も受け入れておりますが、その洗浄履歴管理も将来的に可能になるよう検討中ですので、その際にはご協力の程よろしくお願いたします。

(光学医療診療部 副部長 三上達也)



【編集後記】

南塘だより第70号をお届けします。平成25年の冬は観測史上稀に見る豪雪のためか弘前公園の桜も思うように咲かず、桜祭りも今一つ盛り上がりませんでした。4月以降のニュースとしては、永年にわたり本院の看護業務に尽力された砂田弘子前看護部長が目出度くご退職され、後任として小林朱美看護部長にバトンタッチされました。世はアベノミクスに浮かれています今日この頃ですが、藤病院長のリーダーシップの下、病院職員が一致団結して安心・安全な医療を遂行して頂きますよう心より願っております。(病院広報委員 歯科口腔外科 木村博人)